

ドメイン投票とフューチャー・デザイン

将来指向の選挙制度に関する議論

高知工科大学 経済・マネジメント学群 教授
高知工科大学 フューチャー・デザイン研究センター ディレクター

肥前洋一

2015年度一橋大学政策フォーラム『フューチャー・デザイン』
2015年12月13日

報告の流れ

- ドメイン投票とは？
- 導入の可能性
- 導入されたら何が起こりそうか？

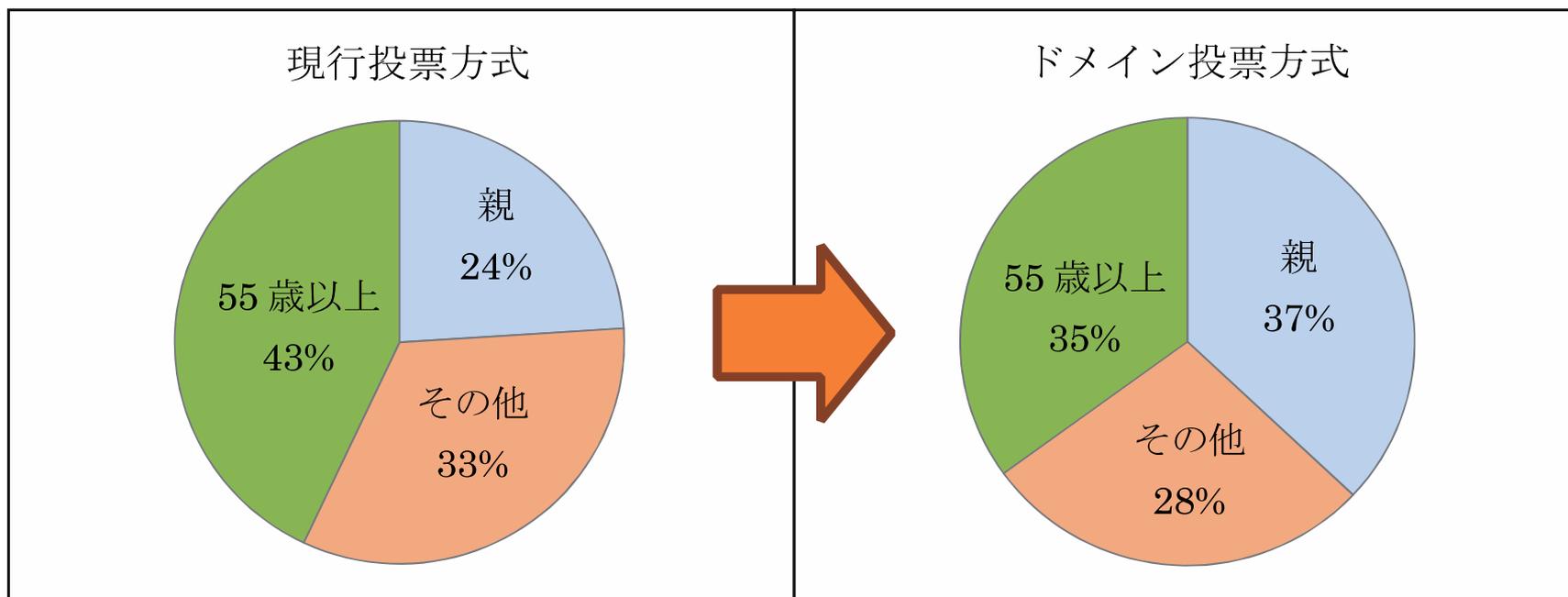
ドメイン投票

- 人口学者 ポール・ドメイン
 - 人口減少への対策として、若い世代の声に敏感な政治を実現するための方法の1つとして提唱。
 - 選挙において、投票権を持たない子供を持つ親に、子供のぶんの票を与える。
- ← 子供も含めて一人一票として、子供の票を親が代理行使するという形で、**一人一票の原則**を保持。
- 出生率の低い国々で導入の可能性が議論。
日本では青木玲子先生がリード。

青木玲子「次世代へのコミットメントに国民的合意を：世代間制限配分の公平を目指す選挙制度改革」NIRAモノグラフシリーズNo.33, 2011.08より

日本でドメイン投票を導入したら（2007年の人口構成にもとづく）

図表5 ドメイン投票方式による投票数の構成変化



「将来世代」を誰とするか？

- 今の子育て世代
- 今の子供たち
- 今生きている人たちから生まれてくる子供たち
- 7世代先の人たち

青木玲子「ドメイン投票方式はいかに支持されるか：政策と政党に関するアンケートから」

NIRAモノグラフシリーズNo.36, 2012.10より

図表2 子どもの票の分配

(%)

子どもの票は誰が投票するか？	A 子ども有 (20歳未満)	B1 子ども有 (20歳以上)	B2 子ども無
ドメイン投票方式に賛成	68.2	31.5	44.5
父親	11.5	4.3	2.7
母親	3.0	0.6	0.6
親が決定	43.3	17.3	26.8
それぞれの親が 1/2 票ずつ	8.7	6.6	10.9
その他	1.7	2.7	3.5
ドメイン投票方式に反対	31.8	68.5	55.5
計	100.0	100.0	100.0

ドイツ下院議事録

- 「[親は]移譲された投票権を乱用するかもしれない。また、両親のうちどちらがその投票権を行使すべきかを決めなければならないという問題も生じうる。」

(Deutscher Bundestag, 2004: 9270; 肥前訳).

ハンガリー新憲法草案第XXI条第2項

- フィデス・ハンガリー市民同盟政権下で作成
- 「将来の世代のために、重点法が未成年の子を持つ家族の母親、または法律の定める場合に母親の代わりにその他の者に追加的に1票与えたとしても、選挙権の平等に違反したものはみなされない。」

(水島朝穂・佐藤史人「試練に立つ立憲主義？—2011年ハンガリー新憲法の「衝撃」(1)」比較法学46(3), 2011)

- 世論が割れる (theguardian記事:
<http://www.theguardian.com/world/2011/apr/17/hungary-mothers-get-extra-votes>)
一部の民族の人々が追加の票を多く得ることへの懸念
→取りやめる。

一部の人たちへの配慮

- スロベニアの国民議会では、数の少ないハンガリー系の国民とイタリア系の国民の代表枠としてそれぞれ1議席が設けられている。
- 一部の人たちのための代表枠を設けるか、
一部の人たちに追加の票を与えるか？

Dimdins, Montgomery & Norell (2011), “Egalitarian vs. Proportional Voting in Various Contexts: An Experimental Study,” Onati Socio-Legal Series, v.1, n.5.

- 市内の近所に新たな集合住宅が建設されようとしています。公正さ、賢明さ、社会のより大きな幸福に関するあなたの個人的な見解にもとづき、次の投票方式をこの件にとってもっとも適切なものからもっとも適切でないものまで順位を付けて下さい。

	Scheme A	Scheme B	Scheme C	Scheme D	Scheme E
建設地に隣接する地区の住民	1	1	1	2	3
建設が計画されている管理区域内に住むものの隣接はしていない地区の住民	1	1	0	1	2
市内の他の地区の住民	1	0	0	0	1
順位:					

人々の間での票数の違いが 受け入れられやすいため条件

- 特定の政治的意思決定であること
- 影響を受ける人たちと受けない人たちが明確に区別できること
- 影響の程度の差が十分に大きいこと
- パイを奪い合う文脈でないこと

住民投票で中学生にも投票権

- 2003年5月11日、長野県平谷村で市町村合併の是非を問う住民投票。
- 中学生以上の村民に投票権。中学生の投票権は全国初。
- 有権者数：530人。投票者数：469人（88.49%）
うち中学生：25人。投票者数：24人（96.00%）
- 賛成：341票（74.29%）、反対：118票（25.71%）
（無投票：10票）

ドメイン投票が導入されたら何が起こりそうか？

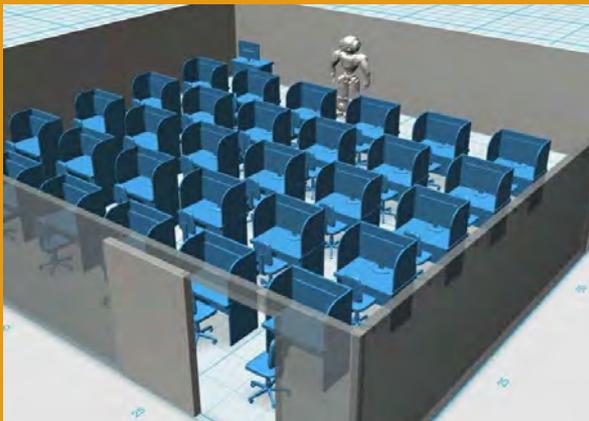
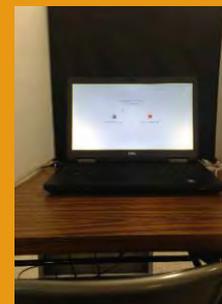
• 上條・肥前・西條の実験室実験



香美キャンパスの集団実験室には、ネットワークで結ばれた24台のWindowsマシンが設置されています。各席は取り外し可能な仕切りで区切られており、匿名性を保持したまま、他者との相互作用を行う実験が実施可能です。

集団実験室 (香美)

最大参加人数：24名
設備：プロジェクタ、ホワイトボード



永国寺キャンパスの集団実験室には、ネットワークで結ばれた30台のWindowsマシンが導入される予定です。個々の席が独立しており、任意の位置に動かすことが可能で、スタンダードな経済実験のみならず、集団討議の実験など、自由度の高い運用が可能です。

集団実験室 (永国寺)

最大参加人数：30名
設備：プロジェクタ、ホワイトボード



実験タスク

- 3人で1組
- 3人の間での金銭の分配案(A, B, C)について決める
- 2人(P1, P2)だけが投票に参加できる
 - P1, P2の間には利害の対立は無い
 - PとFの間には利害の対立はある

P1

P2

F

利己的

分配案 A

700円

700円

300円

利他的

分配案 B

500円

500円

500円

分配案 C

300円

300円

700円

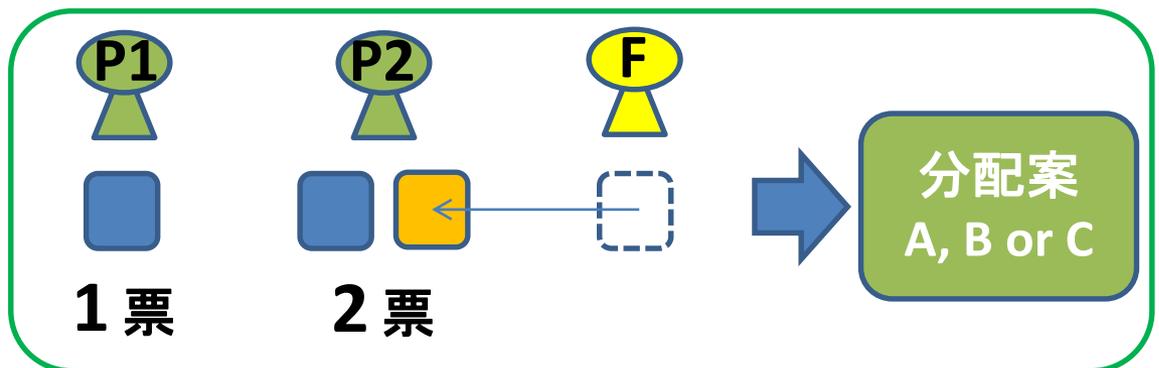
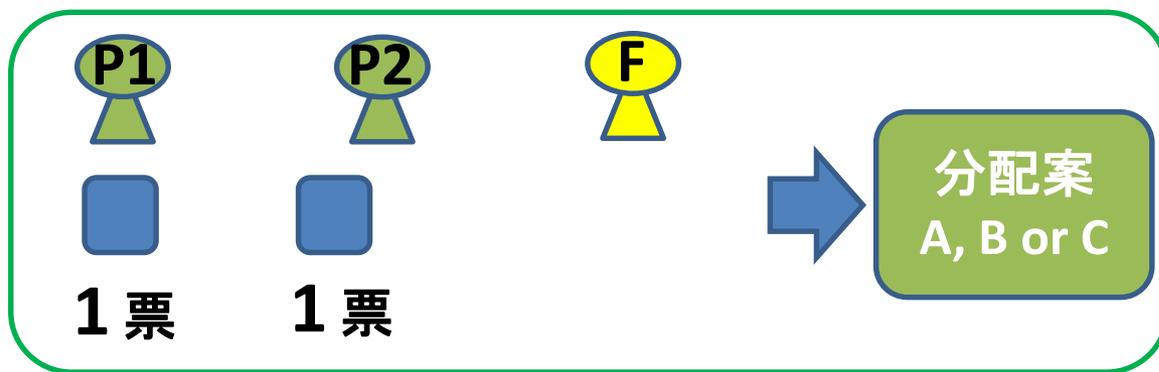
利己的	分配案 A	700円	700円	300円
利他的	分配案 B	500円	500円	500円
	分配案 C	300円	300円	700円

実験デザイン

通常の投票



ドメイン投票

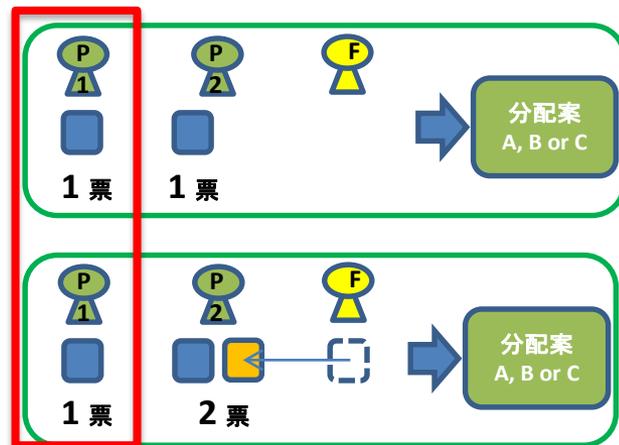


実験結果

ドメイン投票で追加の票
が与えられない人たちの
利他的投票の反転

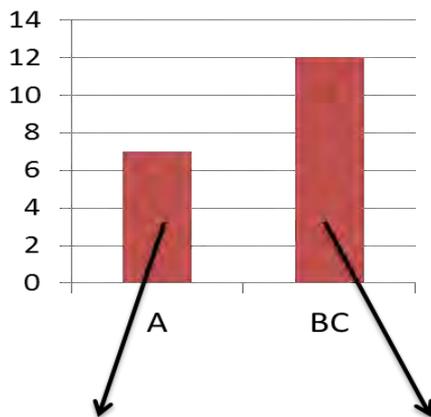
通常の投票

ドメイン投票

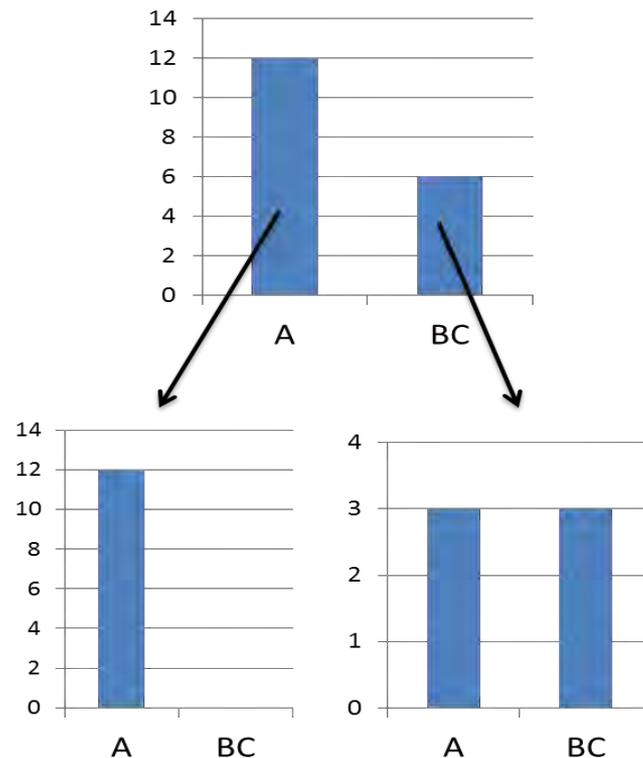
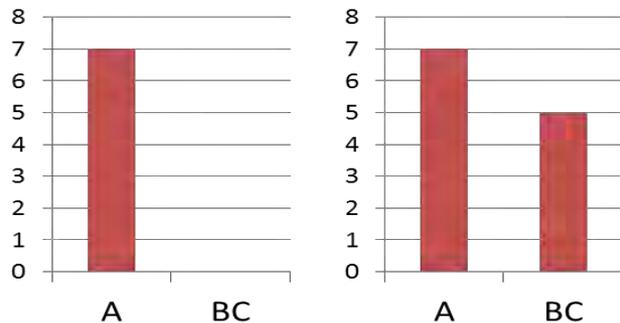


金額を2倍にした場合

通常の投票



ドメイン投票



- 追加の票が与えられない人たちがどのように行動するかにも目を向ける必要
- 一地域の問題であれば、いきなり投票するのではなく、まずは市民討議会などの話し合いをすることが有効？（熟議民主主義）